



上：骨格復元模型 下：アロデスムス想像図

天然記念物

8 2. 珪藻土産アロデスムスの化石

- 指定年月日 平成 11 年 5 月 9 日 (1999)
- 復元寸法 長 216cm 高 94cm 幅 95cm
- 所在地 蛸島町 1-2-563 (珠洲焼資料館)
- 所有者 珠洲市

平成 8 年、三崎町杉山の珪藻土採掘坑で、アロデスムスの化石が、ほぼ全身にわたる骨片が関節でつながった状態で見つかった (残存率 64%)。全身の状態がわかる例は、カリフォルニア州について 2 例目となる貴重なものである。

アロデスムスは、ギリシャ語で「異常な結びつき」を意味する。見かけはアシカやトドなどのアシカ科に似ているが、実はアザラシ科と共通の祖先から進化した独特の^{ききやく}鯨脚類である。約 1600 万年前 (中新世中期初頭) に北太平洋の東海岸のどこかで進化し、約 1400 万年前に、日本近海にまで広がった哺乳類である。巨大な目と単純化した歯が大きな特徴で、前後の指先には長い軟骨がのびて、長大

な^{ひれ}鰭をもっていた。アシカのように暖かな海域にすみ、セイウチのように前後の鰭を使って広域を遊泳したと考えられている。しかしその大きな目や独特の^{あご}歯と顎の構造から、アシカやセイウチと違い、ゾウアザラシのように魚とともにタコやイカなどを狙って深海まで潜水できたと想像されている。オスの成獣は体長 3 m 以上、体重 300kg ほどに成長し、メスは一回り小さかったようだ。珠洲で発見された骨格は、やや小柄で骨端の^{ゆごう}癒合が十分でないことから、若い個体で、^{いんけいこつ}陰茎骨と犬歯がないのでメスと見られる。

約 1000 万年前、海洋環境の寒冷化により、地球から姿を消してしまった。